

作品のあらすじ

※公演作品は時期により異なります。

マイ・フェア・レディ

下町生まれで教養のない花売り娘、イライザは劇場の前で声を張り上げ花を売り歩く。そこを通りかかったヒンクス博士とピッカリング大佐。ヒンクス博士はイライザのあまりに汚い言葉遣いと訛りを馬鹿にし、自分なら高級花屋でも務められるくらいに教育できると言う。博士の家に住み込み教育を受けることになったイライザの人生は、そこから大きく変わっていく…。

ラ・ボエーム

まずしい詩人ロドルフォの部屋へ、階下にすむお針子ミミがろうそくの火を借りに来る。ミミがうっかり落とした鍵を探していると、手が触れあい、たちまち二人は恋に落ちる。2ヶ月ほど付き合った二人だったが、ロドルフォは「ミミは浮気女なので分かれたい」と言い出す。しかし、実際は病気のミミを治してやるお金がないので、ロドルフォは自分から別れを切り出すつもりなのだった。そのことを知ったミミは、春になったら分かれようとロドルフォと約束する。ロドルフォと分かれ、ミミは金持ちのパトロンを得る。しかし、病気が悪化するにつれてロドルフォが恋しくてならない。ついに、死の間際、ロドルフォの元へと戻ってくるが…。

カヴァレリア・ルスティカーナ

舞台はシチリア島のある村。主人公のトゥリッドゥにはローラという美しい恋人がいたが、ローラは彼の兵役中に馬車屋のアルフィオと結婚してしまっていた。除隊後帰郷したトゥリッドゥは、いったんはローラを忘れるべく、村娘サントウツァ（サンタ）と婚約したが、結局はアルフィオの目を盗んでローラと逢引を重ねる仲に戻ってしまった。

これを知ったサンタは怒りのあまり、そのことをアルフィオに告げてしまう。アルフィオは激怒し、復讐のため決闘を申し込むのだった。決闘の結末を知った女達の叫び声で幕は閉じられる。

道化師

カニオは旅芸人一座の座長で、道化師を演じている。女優で妻のネツダは、密かに村の若者シルヴィオといい仲になっていた。ネツダとシルヴィオは駆け落ちを計画し、カニオも知るところとなるが、芝居の開始時刻が迫る。カニオは道化師の化粧をしながら、「こんなときでも客を笑わせるのが道化師の仕事！」と自嘲する。芝居は、カニオ演じる道化師「パリアッチョ」の寝取られ物語。真に迫った演技に観客は大喜びだが、カニオの手に光るナイフを見て騒ぎ始める…。カニオは、ネツダとシルヴィオを刺し殺し、「喜劇は終わりました」とつぶやく。

椿姫

いつも椿の花で身を飾っている高級娼婦のヴィオレッタ。彼女の夜会に招待された青年アルフレードはヴィオレッタにこんな享樂的な生活をやめるように言い、愛の告白をする。ヴィオレッタは、その真剣な愛に、生まれて初めて恋のときめきを覚える。

恋仲となった二人は、パリ郊外で暮らし始めるが、アルフレードの父ジェルモンは、息子や家名のために身を引いてくれるよう、ヴィオレッタに懇願する。ヴィオレッタは、苦悩しつつも若いアルフレードの将来を思い、パリでの享樂的な暮らしへと戻った。彼女に裏切られたと思い外国で過ごしていたアルフレードは、ヴィオレッタが胸の病に倒れたことを知り、急ぎ帰国する。しかし、時はすでに遅く、ヴィオレッタは、アルフレードの幸せを願いながら息絶えるのだった。

ロジェ王

正体不明の羊飼いが新しい宗教を流布していることを賢者から知らされたロジェ王は、羊飼いに面会し死刑を宣告する。しかし羊飼いに魅了された妻のロクサーナに説得され、もう一度宮殿に来ることを約束させた上で、羊飼いを解放する。再び宮殿に現れた羊飼いは周りの人々を虜にし、ロクサーナと群衆を引き連れ、宮殿から消えてしまう。

古代の廃墟で、ロジェ王がロクサーナを探していると、声が聞こえてくる。王がロクサーナに言われるがままに祭壇に花を捧げた瞬間、炎の中から羊飼いに姿を変えていたディオニューソス神が現れる。ディオニューソスはロジェ王を激しく誘い込もうとするが、ロジェ王は反応しない。最後にはロジェ王と賢者のみが残される。

カルメン

小さな町で育ったホセは故郷を離れて軍隊に属している。ホセの仲間の兵士たちは魅力的なオーラを放つジプシーの女性、カルメンの虜になっているが、ホセの心の中には故郷の母と、いつも手紙を運んで来てくれる幼いミカエラのことだけだった。

カルメンは、シャイなホセに好奇心をそそられていた。派手な喧嘩をして逮捕されたカルメンは自分が自由になるためにホセを誘惑し、軍隊から脱走するよう説得する。そして自分と一緒に自由なジプシー生活をするよう誘うのだった。

しかし、カルメンの浮ついた心はずでに別の恋人、闘牛士のエスカミーリョへ向いている。ホセは嫉妬に狂い、カルメンの運命はそこで幕を閉じる。

トスカ

人気オペラ歌手トスカの恋人である画家カヴァラドッシは、友人の共和主義者をかくまっている。それを知っていた警視総監のスカルピアは、カヴァラドッシを捕まえ彼の命を助ける代わりに自分のものになるようトスカに迫るのだった。

スカルピアから処刑は見せしめで銃は空砲であると聞かされたトスカは引き金を引くが、実は実弾が込められており、カヴァラドッシはこの世をさる。それを見たトスカは城壁から身を投げるのだった。

蝶々夫人

舞台は19世紀初頭の長崎。アメリカ海軍中尉（B・F・ピンカートン）は日本での任期中の退屈を晴らすため、15歳の芸者蝶々さんを紹介してもらい、現地妻として結婚してしまう。そうとは知らずピンカートンに本気になってしまった蝶々さんは改宗し、家族との縁を切られてしまう。母国に帰った彼の帰りを息子と共に信じて待つ蝶々さんだが、3年後に戻ったピンカートンはアメリカ人の妻を連れていた。ピンカートンとの間にできた子供を渡せと迫られた蝶々さんは息子を渡し、自決してしまう。

メリー・ウィドウ

ポンテヴェドロ（仮想の小国）の大使は悩んでいた。大富豪と結婚し、すぐに未亡人となったハンナがパリに移り住んだからだ。もしハンナがパリで再婚すれば、莫大な遺産が流出し、国が傾いてしまう。そこで大使は書記官ダニロと結婚させようとするが、2人はかつて身分の違いに引き裂かれた恋人同士だった。中々言い出せないダニロだったが、ハンナが成り行きで他の男との婚約を発表すると、動揺を隠せない。その様子を見て、ハンナもまたダニロへの愛を確信するのだった。ハンナは亡夫の遺言が「再婚するなら、彼女は全財産を失う」というものと明かし、ダニロは即座に結婚を申し込む。ハンナは喜んでこの申し出を受け入れ、「彼女の失った全財産は、再婚した相手に与える」という遺言の続きを伝えるのだった。

2つの結婚式、1人の花嫁

舞台はフランス領モロッコ。借金の返済に追われる父親は、双子の娘を同時に結婚させて取り立て屋の目を逸らそうと考えた。しかしそこに邪魔者の海賊が現れて…。シュトラウスやオッフェンバック、レハール、カールマンらによる名曲を織り交せた、コミカルなオペレッタ。

トゥーランドット

中国皇帝の娘で、冷酷だが絶世の美女トゥーランドット姫は結婚を申し込む男達に3つの謎かけをして、解けなければ処刑という掟を設けていた。身分を隠し求婚を申し込んだダットンの王子、カラフは3つの謎を解いてしまうが、姫は妻となることを拒む。そこでカラフは「明日の夜明けまでに私の名を知れば、潔く死のう」と逆に謎かけをする。

「求婚者の名を解き明かすことができなかつたら、住民は皆死刑とする」と言い、直ちに姫は家来を総動員して王子の名を知る者を探させた。カラフ王子の名前を知るリュウという者が捕らわれ、拷問にかけられるが自ら命を絶ってしまう。カラフは呆然と立ちすくむ姫に熱いキスをする、彼女に自分の名前をそつと打ち明け……。

王様と私

舞台は1860年代のシャム（タイ国王）。イギリスから、未亡人のアンナ・レオノーウェンズがシャム国王の子供達の家庭教師としてやってきた。封建的なタイ王室に近代の風を取り込もうとして、伝統としきたりを重んじる頑固な王様と対立してしまう。王様の横暴な態度や発言に何度も怒り、出て行こうと考えるアンナだが、衝突を繰り返すうちに、次第に2人は引かれあうように…。

フィガロの結婚

小間使いのスザンナと結婚を目前にした召使のフィガロは、主人のアルマヴィーヴァ伯爵がスザンナを自分のものにしようとしている事実を聞かされる。伯爵や、フィガロに夢中の女中頭のマルチェリーナ、フィガロに恨みをもつバルトロに邪魔され、なかなか結婚式をあげられない2人。ところがフィガロは、このマルチェリーナとバルトロの実の息子であることが判明。2人の協力で、ようやくフィガロとスザンナは結婚式をあげることができた。一方懲りずにスザンナを口説こうとしている伯爵をこらしめようとする伯爵夫人。スザンナの振りをして密会現場に来た夫人に、そうとは知らず甘い言葉をささやく伯爵。驚き、深く反省する伯爵を夫人は温かく許してあげるのだった。

アイーダ

捕虜となったエチオピアの王女アイーダは、身分を偽りエジプトの王女アムネリスに仕え、エジプトの将軍ラダメスと秘かにお互い愛し合う仲。そんな中、再びエジプトとエチオピアが戦うこととなり、ラダメスは指揮官を命じられる。戦いはエジプトの勝利に終わり、国王はラダメスに娘のアムネリスと結婚するよう命じた。エジプト捕虜の中にはエチオピア国王のアモナスロがあり、ラダメスからエジプト軍の情報を聞き出すようアイーダに命じる。ラダメスとアイーダの話を聞いていたアムネリスは自分と結婚すれば命を助けると迫るが、拒絶するラダメス。地下牢に生き埋めの死罪とされるが、そこにはアイーダの姿が。2人は静かに死を待ったのだった。

ファウスト

老哲学者ファウストは自分の研究した学問が無駄であったことに絶望し、自殺しようとする。悪魔メフィストが現れ、魂と引換えに若さを取り戻してやるという。若返ったファウストは美しいマルガレーテと恋に落ちる。

やがて子供をみごもるがファウストに捨てられたマルガレーテ。それを知って激怒した兄ヴァレンティンがファウストに決闘を申し込むが、ファウストに殺されてしまう。

気が狂ったマルグリートは自分の子供を殺した罪で投獄されていた。ファウストが脱獄を進めるもマルグリートは拒否し、神に祈り続け死んでしまう。メフィストが魂を地獄へ持っていかようとする所を大天使ミカエルが救済し、彼女の魂は天に召された。

魔笛

山の中でタミーノ王子が大蛇に襲われているところを助けてくれた三人の女性たちは、夜の女王に仕える侍女だった。タミーノ王子は、夜の女王の娘パミーナ姫が、邪悪な魔法使いザラストロに捕らえられていることを知り、さっそく助けに出掛ける。

三人の侍女は、タミーノ王子に魔法の笛を与え、彼のお供をする鳥刺しのパパゲーノには、魔法の鈴を与えて送り出す。ザラストロの神殿に到着したタミーノ王子は、ザラストロが邪悪な魔法使いではなく、高僧であることを知る。タミーノ王子はパミーナ姫と結ばれるために数々の試練に打ち勝ち、ザラストロは2人を祝福するのだった。

ドン・ジョバンニ

天下のプレイボーイ、ドン・ジョヴァンニは騎士長の娘、ドンナ・アンナを誘惑しようと屋敷に忍び込む。しかしドンナ・アンナは悲鳴を上げ、駆けつけた騎士長に斬りかかられたドン・ジョバンニは、逆に騎士長を殺してしまう。何とかピンチを切り抜けた後も懲りずに女性を次々誘惑し、結婚式を挙げている最中の娘ツェルリーナに次の狙いを定める。自分の館での舞踏会に村人全員を招き、その隙に口説く作戦に出るも、復讐に燃えるドンナ・アンナやツェルリーナの婚約者などに悪行を暴露され失敗。その場を逃れたドン・ジョヴァンニは墓場であの騎士長の石像に出会い、悔い改めよと語りかけられるが意に介さず、不敵にも石像を舞踏会に招待する。その後、舞踏会に現れた石像により、地獄に落とされる。

リゴレット

好色なマントヴァ公爵に仕える道化師リゴレットは、ある時公爵に娘を弄ばれたモンテローネ伯爵を笑いものにし恨みを買う。公爵はリゴレットの美しい娘ジルダに貧しい学生だと嘘をついて接近し、何も知らないジルダは公爵を愛してしまう。そんな中、リゴレットに復讐を誓う伯爵は、娘の誘拐計画を立てる。

家来が自分の元へジルダを連れてきたことを知り喜ぶ公爵。宮廷に忍び込んだリゴレットはそこで娘から、誘拐され陵辱された今でも公爵を愛していると告げられる。

激しい怒りを覚えたリゴレットは公爵の殺害を暗殺者に依頼。暗殺話を立ち聞いたジルダは身代わりになることを決意。公爵の死体が入っている袋の中を確認すると、そこには瀕死の愛娘が...

エニシング・ゴーズ

ナイトクラブのスターであるリノはウォール街で働く実業家ホイトニーの部下ビリーにくびったけ。ところが、ビリーは社交界の華・ホープに惚れているためリノの誘いに乗ってこない。ある日、アメリカの豪華客船で、ホープが婚約者のオークリー卿と結婚式を挙げることを知ったビリーは阻止すべく乗り込む。同じく船に乗り込んだリノは彼女の大ファンというイヴリン卿と出会い、いい仲になっていく。そこに指名手配中のギャング・ムーンフェイスが神父に扮装し、ギャング仲間の情婦・アーマと共に潜り込み……一筋縄ではいかない、なんでもありのドタバタ恋愛コメディ！